

オピニオン

今年6月19日から、選挙権年齢が18歳に引き下げられ、一部の高校生まで投票することになる。あるマシムの高校生が選挙権を行使したアンケートの結果、政治に関心がない生徒が半数近くに上り、関心がある生徒を上回った。日本の国家財政は1700兆円(国民1人当たり800万円)を超えている。安全確保や教育福祉、少子高齢化など、山積する社会問題は若者にますます直接影響を及ぼすことになる。無関心でいられない境遇にある自覚を持たなければならぬ。人口も、若者も、都市に集中する傾向は顕著になる一方である。しかしながら、都市だけでは成り立たないこともあると実感できている。命の源の食糧生産現場であり、CO2を吸収し酸素を排出する豊かな自然の保全を担っているのが農山漁村である。その役割と価値を理解する機会が極めて少ない。つまりは、日本の全容を理解するためにも主権者教育は、農山漁村生活体験が極めて重要である。

主権者教育に農山漁村生活体験を

支拂われるのである。キャリア教育も地元で頼み込んで儀礼的に行っている現実があり、地域や場所を変えて農山漁村の生産現場での体験にすべきである。厳しい中でも、誇りや使命感が伝わり、鍛えられ、たまに人間性になる。農家に滞在した生徒が「サラタ以外に野菜の食べ方があることを知った」との感想文。親子を離れた一人暮らしの大学生のほとんどが自分で味噌汁を作っていない。現実、インスタント食品や冷凍食品、コンビニやスーパーの総菜、さらには外食など、野菜嫌い、魚嫌いも若者に多い。家庭の味は「絶滅危惧種」となりつつある。そんな中、和食が世界無形文化遺産になった。今なら間に合う。食農、食食などの「食育」の機会が不可欠である。全国屈指の進学校の何校かは、日本の田舎での交流・コミュニケーション体験から人間関係構築能力の向上を目指す、ホームステイ型の農山漁村生活体験(民泊)を取り入れている。修学旅行は物見遊山の観光地を巡る時代から、教育効果の高い自然豊かな農山漁村への体験交流へと大きく変化を遂げてきている。それは時代の要請とも言える。さらには、特別教育枠の修学旅行に加えて、主権者教育やキャリア教育、食育としても活用してほしい。

日本は次代を背負っていくべきである。高校生に、未来につながる生誕地を感動体験が不可欠である。本紙掲載の地域への訪問をぜひ実現してほしい。 全国ほんのり体験ネットワーク会長 (体験教育企画 代表取締役) 藤澤安良

北海道・標津



酪農王国で本場の酪農体験



食の理解を深める新巻鮭作り体験



郷土料理チャン焼きの夕食

知床の自然環境・産業・食・平和学習 世界自然遺産知床の南に位置する当町は、海、山、川、大平原の恵みが集まる「小さな北海道」とも称されます。北は秘境、知床国立公園の山々が連なり、東の海岸から24時間北方領土国境線が望め、内陸にはミルクの里の雄大な牧草地帯が広がっています。 これら豊かな自然資源のほか、国内屈指の漁獲量を誇る秋鮭などの漁業、広大な牧草地帯で2万頭以上の乳牛により牛乳を出荷する酪農業といった基幹産業を活用した体験プログラムを中心に、地域の人々とのふれあい、交

「ほんもの」の「価値」がそこにある 知床しべつ町 小さな町の大きな挑戦 秋鮭の荷揚げ 流による体験プログラムを各地ではクラフター受け入れを行っており、新巻鮭づくりの体験、ホタテ貝むき体験などを通じて学んでいた。酪農が盛んな根拠地として提供しています。農家の仕事を手にい、労働の大変さを家族の一員として体験しています。終戦直後、旧ソ連軍千島列島を侵襲し、北海道の周辺までやって来たこと、北方四島に住んで来た北方領土に生息する鳥類が、国内の現状です。元国民の高齢化に伴い、引き揚げ当時の様子も残る備忘録を中心に、体験活動を通して、その真実を直接聞くことは年々難しくなっています。日本にも戦争の影が見え隠れする昨今、今一度戦争を知らない若い世代に平和を考える機会を提供します。和食文化の体験型プログラムは、自然、産業、歴史、平和を素材としたエコツーリズム企画、事業を展開してまいります。従来の有名観光地やテーマパークを巡るだけの修学旅行ではなく、地元住民とのふれあいや

交流、体験から感動を共有し、来訪者からは、北海道らしい体験プログラムが充実しているとの評価をいただき、遠くから訪れる観光客も、地元から修学旅行の皆さんを受け入れておられます。受け入れの対応は、地域の名産品を、一名一人が事前に対応策を準備し、インストラクターとして資力を兼ね備え、交流の中心となつて体験活動を通して、和食文化の体験型プログラムは、自然、産業、歴史、平和を素材としたエコツーリズム企画、事業を展開してまいります。従来の有名観光地やテーマパークを巡るだけの修学旅行ではなく、地元住民とのふれあいや

〒086-1632北海道標津町北2条西1丁目1番3号 TEL 0153-82-2131 FAX 0153-82-3011 E-mail:kankou@shibetsutown.jp

日本の農山漁村の深い理解から

岩手県・久慈市



激流シャワークライミング体験



大漁目指して大海岸に出発 漁業体験



洞窟で神秘的な体験

久慈市は、岩手県北東に位置しています。さらに、国内有数の琥珀産地として、復興国立公園と久慈平庭 有名で、久慈市の琥珀は、復興国立公園に囲まれ、約8500年前のもの、自然豊かな町です。 山間部に位置する平庭 教育旅行のメインとなる原は、日本一の白樺林の蔵が、民泊体験です。生林(約31万本、クマ、鹿、野山菜など)の生林が、地元の食文化とこの観光資源が結びついている。この交流を通して、人の原生林が広がる、豊かな自然環境が伝わります。水を涵養しています。太田川が、水質が清潔で、観光客に喜ばれる小川が流れています。 久慈市では、民泊以外、今年度は、洋野町の選択プログラムも充実させて広域連携し、神奈川、山での体験プログラムも充実させていきます。山での体験プログラムも充実させていきます。山での体験プログラムも充実させていきます。

山・海・里こころの交流感動体験 山・海・里こころの交流感動体験 山・海・里こころの交流感動体験 山・海・里こころの交流感動体験 山・海・里こころの交流感動体験 山・海・里こころの交流感動体験 山・海・里こころの交流感動体験

山・海・里こころの交流感動体験 山・海・里こころの交流感動体験 山・海・里こころの交流感動体験 山・海・里こころの交流感動体験 山・海・里こころの交流感動体験 山・海・里こころの交流感動体験 山・海・里こころの交流感動体験

山・海・里こころの交流感動体験 山・海・里こころの交流感動体験 山・海・里こころの交流感動体験 山・海・里こころの交流感動体験 山・海・里こころの交流感動体験 山・海・里こころの交流感動体験 山・海・里こころの交流感動体験

ふるさと体験学習協会 担当者:事務局長 高橋昭治 営業時間 平日 8:30~17:15(年末年始・祝祭日休み) 久慈市では、民泊以外、今年度は、洋野町の選択プログラムも充実させて広域連携し、神奈川、山での体験プログラムも充実させていきます。山での体験プログラムも充実させていきます。山での体験プログラムも充実させていきます。

岩手県・三陸海岸



人気のサッパ船による漁業体験の現場



復元された体験施設「機浜番屋群」



復旧再開したホテル羅賓荘

岩手県田代町は、三陸の太平洋に面した美しい海岸に、かつては、日本の観光名所として知られていた。しかし、東日本大震災の影響で、多くの観光施設が壊滅した。しかし、地元住民と観光客の協力によって、多くの観光施設が復旧され、観光客の訪れも徐々に回復している。この地域は、自然豊かな環境と、歴史ある文化が、観光客に大きな魅力を提供している。地元住民は、観光客の訪れを歓迎し、地域の活性化に貢献している。観光客は、美しい自然と、歴史ある文化を堪能し、心癒される体験ができる。この地域は、観光客にとって、最高の観光地である。

大震災体験の伝承・復興への歩み・生き抜く力 大震災体験の伝承・復興への歩み・生き抜く力 大震災体験の伝承・復興への歩み・生き抜く力 大震災体験の伝承・復興への歩み・生き抜く力 大震災体験の伝承・復興への歩み・生き抜く力

大震災体験の伝承・復興への歩み・生き抜く力 大震災体験の伝承・復興への歩み・生き抜く力 大震災体験の伝承・復興への歩み・生き抜く力 大震災体験の伝承・復興への歩み・生き抜く力 大震災体験の伝承・復興への歩み・生き抜く力

大震災体験の伝承・復興への歩み・生き抜く力 大震災体験の伝承・復興への歩み・生き抜く力 大震災体験の伝承・復興への歩み・生き抜く力 大震災体験の伝承・復興への歩み・生き抜く力 大震災体験の伝承・復興への歩み・生き抜く力

大震災体験の伝承・復興への歩み・生き抜く力 大震災体験の伝承・復興への歩み・生き抜く力 大震災体験の伝承・復興への歩み・生き抜く力 大震災体験の伝承・復興への歩み・生き抜く力 大震災体験の伝承・復興への歩み・生き抜く力

〒028-8402 岩手県下閉伊郡田代町1142-3 機浜番屋群内 TEL 0194-37-1211 FAX 0194-33-3355 E-mail:taiken-tanohata@car.ocn.ne.jp URL:http://www.tanohata-taiken.jp/

体験村・たのはた教育旅行受入協議会 NPO法人 体験村・たのはたネットワーク 担当 楠田・武井